

参考: 答申等にみられる小学校 各教科等の課題について

課 題 の 主 な 内 容	
国 語	<p>【国際的な学力調査の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解力で低下傾向が見られること。文章や資料の解釈、熟考・評価や論述形式の設問が弱い。 <p>【教育課程実施状況調査から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体として正答率は高くなっているが記述式の問題は低下。文章を深く読んで分析的に理解し、その上で論理的に記述する設問で正答率が低下。 ・中学校では、古典に親しむ態度や読む能力、文語や朗読のきまりの理解。
社 会	<p>基礎的・基本的な知識、概念が十分に身に付いていない。</p> <p>【教育課程実施状況調査から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定正答率を下回る割合が多いのは「知識・理解」に関する問題。 ・5年「我が国の国土の様子」では、国土を構成する島の名称や位置、地形や気候の大まかな様子の特色、都道府県の名称と位置の知識や理解が不十分。 ・6年「我が国の歴史上の主な事象」で、特に江戸時代以降に関する歴史的事象の理解が不十分 <p>中学校や高校で文化の扱いが少ない。</p> <p>小学校社会科で諸外国についての基礎的な知識が不足、中学校社会科の地理的分野で国のうち2つ又は3つの事例地域に限定していること、歴史的分野において世界の歴史にかかわる内容が少ない</p> <p>グローバル化や規制緩和の進展、司法の役割の増大など、社会経済システムの在り方が変化。</p>
算 数	<p>【国際的な学力調査や教育課程実施状況調査から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算などの技能の定着については低下傾向が見られないが、計算の意味を理解することなどに課題。 ・身につけた知識や技能を生活や学習に活用することが十分でない。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の学習に対する意欲は他の教科と比較して高いが、それが大切だという意識は高くなく、両者に乖離がみられる。国際的にみると、我が国の子どもの理科の学習に対する意欲は低い状況がみられる。 ・理科の学習の基盤となる自然体験、生活体験が乏しくなっている。国民の科学に対する関心が低い。 <p>【教育課程実施状況調査から】</p> <p>てこのつり合いや衝突、人体の構造や働き、物質の状態変化や化学変化における質量の保存、植物の生活と種類などの内容の基礎的な知識・理解が十分ではない。</p> <p>地層の働き方を推論する問題、意味付けや関係付けを伴う説明活動に関する問題、グラフを読み取り考察する問題、実験の途中経過を考察する問題などで、科学的な思考力・表現力が十分でない。</p> <p>【PISA調査から】</p> <p>「科学的証拠を用いること」に比べ、「科学的な疑問を認識すること」や「現象を科学的に説明すること」に課題がみられる。</p>
生 活	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動が体験だけで終わっていることや、活動や体験を通して得られた気づきを質的に高める指導が十分に行われていない。 ・表現の出来映えのみを目指す学習活動が行われる傾向があり、表現によって活動や体験を振り返るといった、思考と表現の一体化という低学年の特質を生かした指導が行われていない。 ・児童の知的好奇心を高め、科学的な見方・考え方の基礎を養うための指導の充実を図る必要がある。 ・安全教育を充実することや、自然事象に接する機会が乏しくなっている状況を踏まえ、生命の尊さや自然現象について体験的に学習することを重視する。 ・小1プロブレムなど、学校生活への適応を図ることが難しい児童の実態があることを受け、幼児教育と小学校教育との具体的な連携を図る。

課題の主な内容	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を高め、思考・判断し、表現する一連のプロセスを働かせる力、生涯にわたって音楽に親しみ、音楽文化のよさを味わったり、生活や社会に生かしたり豊かにしたりする態度を育成すること。 ・音楽を表現する技能と鑑賞する能力の育成においては、音や音楽を知覚し、感性を働かせて感じ取することを重視すること。 ・歌唱の活動に偏る傾向があり、表現の他の分野と鑑賞の学習が十分でない状況が見られるため、創作と鑑賞の充実を図ること。 ・我が国の音楽文化に愛着をもち、そのよさを感じとって理解し、他国の文化を尊重する態度を養うため、長く歌い継がれて親しまれてきた日本のうたや、和楽器などの伝統音楽の学習を充実すること。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を働かせて思考・判断し、創意工夫をしながら表現したり作品を鑑賞したりするという一連のプロセスを働かせる力の育成。 ・子どもたちの興味や関心の高まりを資質や能力の向上に生かすような指導の改善。 ・生涯にわたって美術に親しみ、生活や社会に生かしたり、豊かにしたりする態度の育成。 ・感じ取ったことを基に自分の思いや考えを大切にしながら、自分なりの意見を発見する等の鑑賞の学習の充実。 ・我が国の文化等にかかわる学習を通して、その継承や創造への関心をたかめるとともに、諸外国の文化のよさを理解すること。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていない。 ・事故と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度。 ・体験から知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度。 ・家庭・地域との連携。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりするその基礎となる運動の技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分でない。 ・運動する子どもとそうでない子どもの2極化。 ・子どもの体力低下傾向が深刻な問題となっていること。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、自らの健康管理に必要な情報を収集して判断し、行動を選択していくことが一層求められること。 ・生活習慣の乱れが小学校低学年にも見られる。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等学校の道徳教育を通じ、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う...その基盤となる道徳性を養うこと。学校や学年段階ごとに、道徳教育で取り組む課題を重点化すること。 ・道徳の時間おける子どもの受け止めが、小学校と中学校では相当異なる。 ・道徳教育を支える推進体制の充実、体験活動の充実、家庭や地域社会との一体的な取組。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化、都市化、少子高齢化などの社会状況の変化を背景に、生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合っ解決する力の不足、規範意識の低下などが顕著なこと。 ・好ましい人間関係を築けないことや望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分なこと。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな成果をあげている学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況もある。 ・小学校と中学校とで同様の学習活動を行うなど、学校種間の取組の重複もみられる。 ・補充学習やもっぱら教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、運動会の準備などと混同された実践が行われたりしている例も見られる。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校段階での国際理解活動やその一環としての英語活動、外国人とのコミュニケーション活動などが、現在、多くの学校で実施されているが、取組内容に相当のばらつき(指導内容や時間数)があり、国としてその充実に向けた取組を進める。